

作品賞
(特別賞)

SBSスタジオ棟

建築主：静岡放送株式会社 松井 純
設計者：大成建設株式会社 田中 勉、勝田庄二、平尾明星
施工者：大成建設株式会社 安井正憲



SBSスタジオ棟

建築概要

建設地：静岡県静岡市登呂3丁目1番地1
建築主：静岡放送株式会社
設計：大成建設一級建築士事務所
施工：大成建設株式会社
竣工：2001年4月
建築面積：1351.92㎡ 延床面積4705.00㎡
階数：地上5階、地下無し
高さGL+25.5m 鉄塔高さGL+70m
構造種別：鉄筋コンクリート造(一部コンポジット梁)

選評

本建物は、JR静岡駅の南約2kmの位置に建つ鉄筋コンクリート造で、5階建の放送局である。

この地域は、近い将来に想定されている東海地震の震源域に当たり、既存建築物の耐震診断・補強が重点的に行われている。また新築の建築物に対しても、独自の地域係数が設定されている。

静岡新聞社・静岡放送グループは、この想定地震に対して社会的使命を果たすべく、中長期的な計画の一環として、この建物より先に隣接して建設された新聞制作センターに続き、このスタジオ棟にも免震構造を採用し、建設している。

同グループは、震災時にもメディアとしての機能を維持させるため、高い信頼性を求め、免震構造を採用することで、一ヶ所に重要な施設を集中させている。

免震構造の採用に当たっては、屋上に設置されたパラボアンテナ用のアンテナ塔があり、その指向性を確保するために、高減衰積層ゴムアイソレーターとバイフロートタイプのオイルダンパを用いている。

メディアの大震災時の機能維持のあり方として、初めて免震構造を採用し、解決している。本建物だけではなく、隣接する新聞制作センターと共に、作品賞(特別賞)に値するものである。(大越俊男)

免震化した経緯及び企画設計等

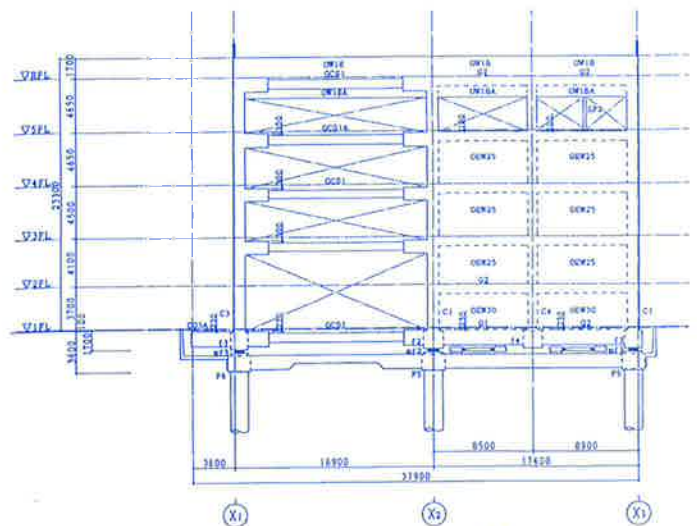
スタジオ建設の目的は大きく2つあり、1つは放送のデジタル化に対応するための新しい設備として、もう一つは将来想定されている東海地震の震災直後において放送継続可能な施設とすることである。後者の目的のために、建物全体を免震化する提案が受け入れられた。

建築のデザインは直方体のポリウムを巧みに分割し、グリーンを基調としたカーテンウォールを用い上層のプロフリットガラスと調和させたシンプルなデザインとしている。

技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

構造体は鉄筋コンクリート造を基本としており、事務所空間においてロングスパンが必要な梁はスパンの中央がH型鋼梁でできたコンポジット梁を用いることにより解決し、音や電磁シールドやRCの利点を生かしている。これは免震部材の集約の点からも効果的であった。

建家屋上の45m鉄塔の頂部にあるパラボアンテナが設けられている。このパラボアンテナは強い指向性が要求され、地震直後建物が平面的にねじれ等を生じ0.5度以上回転することが許容されないため免震部材としては履歴変形を残さないタイプの高減衰積層ゴムアイソレーターとオイルダンパを設け地震後は元の位置に復帰するようにしている。また災害時の機能確保の点から放送機能は、電気、水などライフラインが途絶した後も72時間維持し続けるように計画されている。



Y1 通り軸組図